

## 検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
 平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。  
 この度、精度の向上を目的とし、下記項目の検査内容を変更させていただくこととなり、取り急ぎご案内申し上げます。なお、提出方法に変更はございません。  
 誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

### 変更内容

項目番号	新				旧			
	項目名	検査方法	基準値	報告上限	項目名	検査方法	基準値	報告上限
193	梅毒定性 (TPLA 法)	LA 法	(-)		梅毒定性 (TPHA 法)	PA 法	(-)	
197	梅毒定量 (TPLA 法)	LA 法	5U/ml 未満	5000 U/ml	梅毒定量 (TPHA 法)	PA 法	(-)80 倍 未満	20480 倍
199	梅毒定性 (RPR 法)	LA 法	(-)		梅毒定性 (RPR 法)	凝集反応	(-)	
247	梅毒定量 (RPR 法)	LA 法	1.0 R.U. 未満	200.0 R.U.	梅毒定量 (RPR 法)	凝集反応	(-)1 倍 未満	32 倍

総合検査のご案内 P. 64 掲載

### 検査実施日

平成 25 年 3 月 25 日 (月) 受付分より

197 梅毒定量 (TPLA 法) 判定基準

陰性	5 U/ml 未満
判定保留	5 U/ml 以上、10 U/ml 未満
陽性	10 U/ml 以上

247 梅毒定量 (RPR) 判定基準

陰性	1.0 R.U. 未満
陽性	1.0 R.U. 以上

定性検査と定量検査を同時にご依頼の時、次の通り報告させていただきます。

定性検査 (項目番号 193 もしくは 199) が陰性の場合

	新	旧
定性検査	(-)	(-)
定量検査	ショウリヤク	テイセイ (-)

193 梅毒定性と 197 梅毒定量の同時依頼で判定保留域の場合

	新	旧
定性検査	ハンテイホリュウ	設定なし
定量検査	測定値	設定なし

判定上の注意点

1. 乳び検体では測定値に影響をおよぼす場合 (高値化傾向) があります。
2. 免疫グロブリンを含む血液製剤投与検体は測定値に影響をおよぼす場合があります。
3. LA 法における RPR 法では、IgM 抗体との反応性が強いため、治療効果を反映しやすくなります。
4. TPLA 法において結果が判定保留の場合、経時的に検査し、また、他の検査結果 (RPR 法、FTA-ABS 法等) や臨床症状等を考慮した上で、総合的にご判断下さい。